



「いわし」への支出



— 家計調査（二人以上の世帯）結果より —

節分の日食べる習慣として、最近の報道などでは「恵方巻」がよく取り上げられます。しかし、調べてみると「恵方巻」以外にも、主に西日本では「いわし」、関東では「けんちん汁」、四国では「こんにゃく」を食べる習慣があるようです。

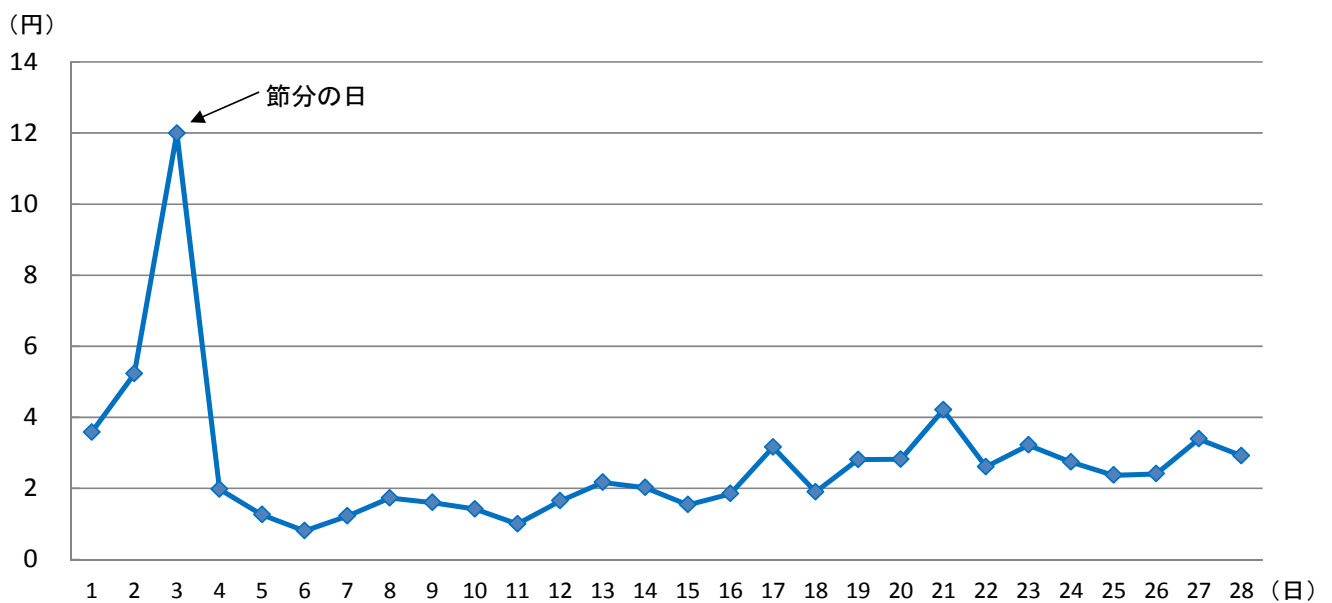
特に「いわし」は、食べるだけではなく、頭の部分を ^{ひいらぎ} 柊の小枝に刺し、「魔除け」として玄関先や軒先に飾ったりする習慣もあります。

そこで今回は、「いわし」への支出について家計調査の結果から見てみましょう。

節分の日「いわし」への支出は2月の1日当たり平均の約5倍

最初に「いわし」への1世帯当たりの日別支出金額について、平成27年2月の結果を見ると節分の日2月3日の支出が最も多く、この日を除く2月の1日当たり平均支出金額（2.4円）の約5倍となっており、家計調査の結果から節分の日「いわし」が多く購入されていることがわかります（図1）。

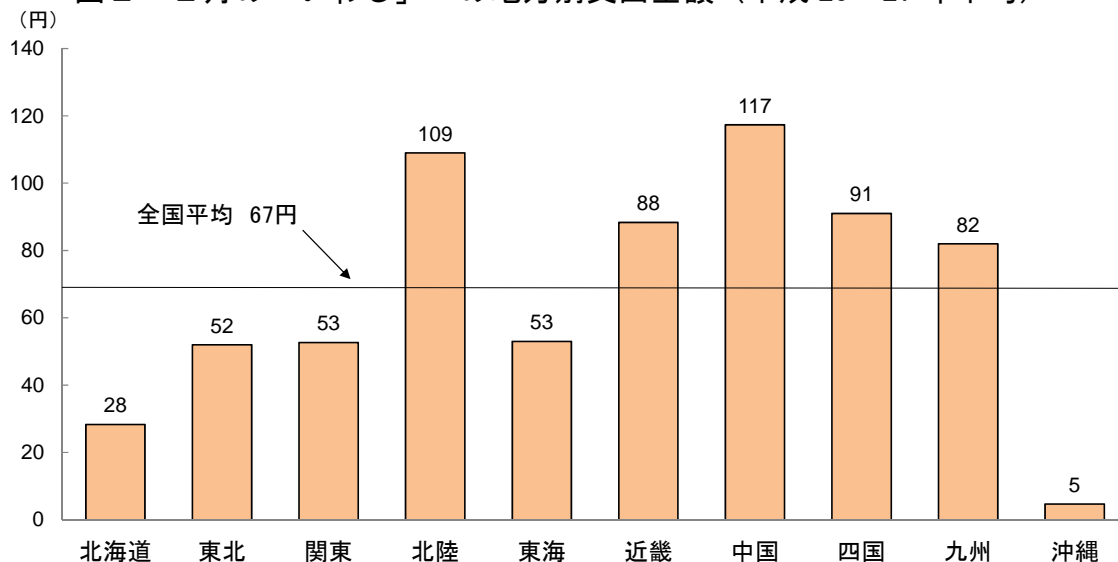
図1 「いわし」への日別支出金額（平成27年2月）



2月の「いわし」への支出は西日本が多い

次に、2月の「いわし」への1世帯当たりの支出金額を地方別に見ると、中国、北陸、四国地方などで多く、東日本に比べて西日本で全国平均を上回っており、支出金額が最も多い中国地方では、全国平均の1.7倍となっています。また、支出金額が2番目に多い北陸地方は、主に富山県や石川県で「いわし」を糠漬けにした保存食の「こんかいわし」が有名ですが、冬のタンパク源として「いわし」を購入し、食べる世帯が多いようです（図2）。

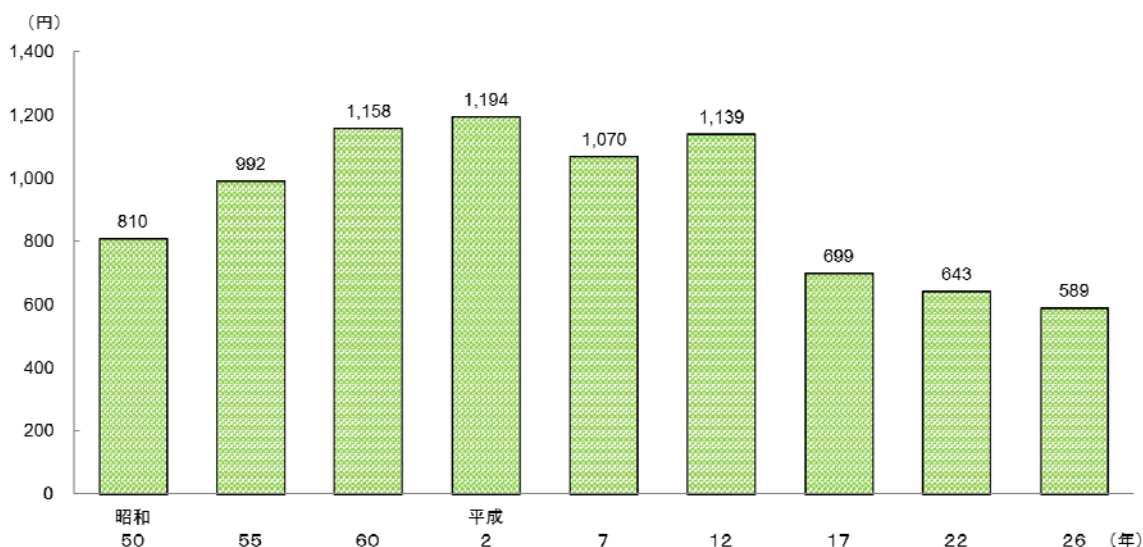
図2 2月の「いわし」への地方別支出金額（平成25～27年平均）



「いわし」への支出は15年前の半分以下に減少

最後に「いわし」への1世帯当たりの年間支出金額について、5年ごとに推移を見てみましょう。昭和60（1985）年から平成12（2000）年頃までは、漁獲量の増加に加え、「いわし」に含まれるDHAやカルシウムが健康面から注目されたことから、支出金額は1,000円を上回っていました。しかし、平成17（2005）年以降は漁獲量の減少から市場に出回る量も少なくなり、平成26（2014）年の年間支出金額は平成2（1990）年の半分以下となっています（図3）。

図3 「いわし」への支出金額の推移（昭和50年～平成26年）



注）平成7年以前は農林漁家世帯を除く。